

越嶺会報

令和5年(2023年)3月30日

第93号

発行 越嶺会本部

〒930-8555(富山市五福3190)

富山大学経済学部内

☎(076)445-6411(ダイヤルイン)

Fax(076)445-6419

郵便振替 00710-9-14562

メールアドレス etsurei@eco.u-toyama.ac.jp

越嶺会ホームページ



富山大学経済学部(旧高岡高商)

創立100周年記念事業募金を お願いします。

記念大会は、来年2024年10月13日(日)

記念事業の柱は、「人材育成」。

記念大会には現役学生も参加し、発表・展示を行います。

目次

第1部

富山大学経済学部(旧高岡高商)創立100周年記念事業について

第2部

越嶺随想 10

翻訳本を読み比べる愉しみ 杉浦 吉治

越嶺論壇 11

今頑張れるのは富山魂のおかげ 金森 喜久治

母校だより 12

教員の異動 昇任(神山智美教授)

新任(シャティ助教)

経済学部資料室だより

学生の活動

北信越ブロックインナー大会に参加して

本部だより 13

総会報告、グリーン会ゴルフコンペ報告

決算・予算書

同窓会連合会総会報告、ゴルフ大会報告

寄贈図書御礼・紹介

「オケラの戯言」「富山県の鉄道」

私の卒業論文 竹澤喜孝、太田恵雄 18

会員の訃報 20

追悼 土屋民雄さん、古澤英雄さん、

安倍 樹さん

創立百周年記念事業を成功させよう

記念大会長 中尾哲雄(越嶺会最高顧問)



われらが経済学部は大正十三年(一九二四年)に創設された高岡高等商業学校をその源流としていくつの変遷を経ながら明年(令和六年)満百周年を迎える。

顧みればわが国も世界も大きな変革の百年であった。二万五千名の越嶺会同窓生はこの激しい変化の中に身を置き、各々が各々の様々な役割を果たしてきた。百周年を迎えんとするいま、母校の歩みきた道とその時代背景をあらためて考えてみようではないか。

われわれは単に過去をなつかしみ回想するだけでなく、史実を認識することによって母校とは何か、伝統とは何かを考え、時を越えて脈々と流れてゆく経済学部、越嶺会の精神と同窓の連帯を確認し合い、それをさらに深めてゆきたい。

この度、百周年実行委員会が発足し、記念事業の準備に入る事ができてうれしく思う。在学の後輩の諸君とも関係を深めていくことも検討されている。

越嶺会のみなさんの百周年の記念事業にいろいろな形で参加くださいますようお願い申し上げます。

来年、なつかしい五福キャンパスで会いましょう。



心の拠り所となる越嶺会を目指して

実行委員長 伍嶋二美男(越嶺会会長)



私たちの母校・経済学部は、令和六年九月に創立百周年の大きな節目を迎えることとなりますが、これまで長きにわたり、事業運営にご支援ご協力いただきました会員の皆様に深く感謝を申し上げます。現在、我が越嶺会は、約二万五千名を超える会員数で構成されており、国内外における様々な分野で活躍する有為な人材の養成母体として、引き続き大切な役割を果たしていくことが求められております。

来る百周年は、改めて我々自身と越嶺会の立ち位置を考える貴重な機会であるとともに、越嶺会を心の拠り所の一つとして考えていただけるよう、会員及び現役学生の皆さんの距離を縮め、絆を深めるような取り組みを数多く展開できればと思っております。

現在、実行委員会が設立され、各記念行事に向けた準備が始まったばかりであり、たくさんの方の困難な課題がありますが、同志の皆さんと一体となつて乗り越え、心に残るすばらしい記念大会として最高の笑顔で迎えたいと切に願っております。

会員の皆様には、是非、お近くのOBの皆さんと連絡をとりながら、「百周年を富山の地で祝おう。」とお声がけいただくようお願い申し上げますとともに、百周年を契機として越嶺会が会員の皆様にとつて心温まるエコシステムとして続きますことを念願しております。



次世代を担う人材の育成へ向けて

富山大学経済学部長 森口毅彦



令和六年度に、富山大学経済学部(旧高岡高商)は創立一〇〇周年を迎えます。この時を迎えることができるのは、二万五千人にのぼる越嶺会会員の皆様のご支援があったからに他ならないものと大変感謝いたしております。

このたび、創立一〇〇周年記念事業実行委員会が発足し、様々な事業を計画していただいております。とりわけ、「新たな価値創造にチャレンジする人材育成」に向けた支援といたしまして、これからの時代を担う人材の育成に重きをおいた支援事業を企画していただいていることは誠に喜ばしいこととございます。

これからの時代、様々な地域課題やビジネス課題に対してデジタル技術を活用して解決を図っていく実践的な能力をもった人材が強く求められています。そのためには、大学内だけの学びにとどまらず、地域社会で学生を育て上げていくことが必要ではないかと思えます。実社会の中で活躍されている越嶺会会員の方々から「寄附講義の開設」やインターンシップ等を通じて実践的な学びを受けることは、大変貴重な経験になるはずです。そして、そこで学びを受けた学生が、卒業後には今度は自らが越嶺会会員として後輩たちの指導にあたっていくという循環ができればとても素晴らしいことではないでしょうか。そうした活動を通して、現役学生の皆さんが越嶺会をより身近に、そして大切な存在として感じるようになってくれることと思えます。

創立一〇〇周年記念事業につきましては、このような人材育成面に関しましてもぜひ皆様のお力添えを賜ることができましたら幸いです。何とぞよろしくお願ひ申し上げます。



富山大学経済学部（旧高岡高商）創立一〇〇周年記念事業

1 基本方針

富山大学経済学部の創立一〇〇周年の大きな節目を迎えるにあたり、創立五〇周年から実施された各記念事業の内容を踏まえつつ、母校である富山大学経済学部のさらなる発展に向けて、同窓生の連帯を強めるための事業を展開する。

越嶺会は、これまでの長い歴史を背景に、現在、約二万五千人の会員を有するまでに人材の輪を拡げてきており、国内外の経済活動をはじめ地域振興の担い手となる多くの有為な人材を輩出してきた。

一方、近年、社会のグローバル化が進むとともにデジタル化などの先端技術の進展、地球温暖化に対する適切な対応が求められるなど、社会情勢は激変の中にある。こうした時代にあつて、多様な能力を活かしながら新たな付加価値を創造し果敢に未来を切り拓いていく人材がこれまで以上に求められることから、越嶺会としてその担い手の育成に向けて重点的な支援に取り組むものとする。

2 記念事業

(1) 記念大会の開催

二〇二四年(令和六年)十月十三日(日)

◇ 記念式典、記念講演会、ゼミ発表会 ※1・2

午前十時～十二時

会場 「オーバードホール」

◇ 祝賀会 午後一時～三時三十分

会場 「オークスカナルパークホテル」

※1直接参加またはオンラインによるハイブリッド開催

※2現役学生に対する参加呼びかけ

(学生参加行事の検討・ゼミ活動発表会等)

■ その他、同期会・ゼミOB会、ゴルフ大会、所縁の地を巡るバスツアーを実施。

(2) 「新たな価値創造にチャレンジする人材育成」に向けた支援
現役学生の学びへの支援として、従来の「越嶺会基金」及び「越嶺奨学基金」による対応に加えて、人間力に溢れ、リスクを負って果敢にイノベーションにチャレンジする「時代が求める実践的な人材育成」に向けた支援を重点的に行う。特に、県内企業との連携を強化していく。

① 越嶺会会員が講師等となる「寄附講座の開設」

■ 学部一年生から四年生まで、切れ目のない一貫通貫型の講座開設

■ 事業現場（企業側）との交流（マッチング）による実践型人材の育成

学部一年生：社会課題への理解や専門技術に関するスキルの習得

二年生：事業経営現場の課題の発見及び解決策の検討

三年生：インターンシップ（コミュニケーション・チームワークの習得）

四年生：ゼミ活動の発表

② スタートアップ（起業・創業）に向けた機運醸成

■ 全国的に人口減少が進む中、新たな付加価値を高め産業創造を促すなどの新陳代謝を進めていくため、現役学生の起業家精神を涵養する講座等を開設する。
※テーマ等については、教員の皆さんと協議して設定。

(3) 環境整備

① 「経済学部棟講義室の改修」

卒業論文発表時や越嶺会支援の特別講義に活用

② 「七〇周年記念事業による学部棟周辺緑地等の補修整備」及び寄贈壁画「劔岳」の整備（清掃・補修）

③ 経済学部棟内での「OBサロン」の設置

④ 「経済学部特別史料室」及び「大熊信行文庫」の充実

(4) 「経済学部一〇〇年史」の発刊

二〇二八年 発刊予定（教授陣との連携）

(5) 「経済学部一〇〇周年記念 会員名簿」の発行

二〇二五年発刊予定

3 事業費を計上する記念事業（概算費で計上）

(1) 記念大会等の開催

四〇〇万円

(2) 経済学部棟講義室の改修

二、五〇〇万円

(3) 学部棟周辺緑地等の補修整備

五〇〇万円

(4) OBサロンの設置

五〇〇万円

(5) 人材育成事業

五、〇〇〇万円

（従来基金積み増し含む。）

(6) 経済学部一〇〇年史の発刊

五〇〇万円

(7) 経済学部一〇〇周年記念会員名簿の発行

（別途、購入者負担）

(8) 事務局経費

六〇〇万円

計 一億円

4 組織体制及び担当業務内容

(1) 記念事業実行委員会

【委員構成】

記念大会長 (越嶺会最高顧問) 中尾哲雄氏

実行委員長 (越嶺会会長) 伍嶋二美男氏

実行副委員長 (越嶺会副会長) 八名

(県外支部長) 五名

実行委員 ◇常任幹事会 監事 常任幹事 三八名

◇各卒業年次代表 計 約 四四名

約 九七名

(2) 専門部会の設置 (部会長は、副会長等が兼任)

① 募金部会 (七〇名)

※ 募金部会については、幅広く寄附を呼び掛けていくため、常任幹事に加えて、実行委員会委員として卒業年次ごとに複数の委員を任命する。

② 広報部会 (一〇名) 今回、独立した部会として設置

20代及び30代の若手会員と現役学生を主体として組織化

織化

□ 「越嶺会ホームページ」での「一〇〇周年記念事業コーナー」の開設

□ 「越嶺会会報」への「QRコード」添付

□ SNSを活用した積極的な情報発信

□ 一〇〇周年グッズの活用(名刺、クリアファイル、

トートバッグ等)

(3) 各部会長・副部会長名

① 募金部会 部会長 宮村 樹

副部会長 桑原 幹也 副部会長 森永 利宏

副部会長 土屋 誠 副部会長 藺守 貴弘

副部会長 大波加 肇 副部会長 浦田 純一

副部会長 福田 直之 副部会長 松本 智広

② 広報部会 部会長 竹野 博和

副部会長 小林 武人 副部会長 山田 勉

副部会長 二口 洋 副部会長 牧山 貴英

③ 式典・祝賀部会 部会長 山瀬 孝

副部会長 堀田 正之 副部会長 鶴瀬 初弘

副部会長 谷畑 滋英 副部会長 堺 広光

副部会長 五島 直樹 副部会長 寺島 直美

④ 事業部会 部会長 桑原 幹也

副部会長 (エクスカーション担当) 竹田 達矢

副部会長 (ゴルフ担当) 土屋 誠

副部会長 (OBサロン、講義室担当) 杉原 英樹

副部会長 (OBサロン、講義室担当) 村田 英久

⑤ 人材育成部会 部会長 土屋 誠

副部会長 荻布 彦 副部会長 大西 哲憲

副部会長 亀永 辰之

⑥ 記念誌部会 部会長 竹田 達矢

部会長 竹田 達矢

5 募金の考え方について

(1) 募金実施期間 二〇二三年（令和五年）三月～二〇二四年（令和六年）七月三十一日

(2) 募金方法

① 越嶺会報第九三号（二〇二三年三月発行）の第一部を「二〇〇周年記念事業特集」として、振込用紙を同封して

募金開始。

※郵便局、銀行等（北陸、富山第一、富山、富山信用金庫）、ネットバンキングも可とする。（コンビニは不可）

② 募金は、分割も可とし、毎回の会報送付時に振込用紙を全員に同封。（周囲の会員に勧めってもらうため）

越嶺会報に寄付者名簿を掲載（募金者名の掲載についての意向を確認のうえ対応。匿名・金額不掲載など）

※今後、会報掲載以外の取り扱いも検討予定。

(3) 募金基準額 ■ 基準額として、一口 五千元 別途、卒業年次別の募金要請口数を設定する。

【卒業年次別の募金要請口数】

A 高商、学部一～一四回（九五七名） 八〇歳以上 基準を設けず

B 学部一五～二四回（二〇六九名） 現七〇歳代 2口以上（できれば4口以上）

C 学部二五～三四回（二八二八名） 現六〇歳代 2口以上（できれば4口以上）

D 学部三五～四四回（二四四三名） 現五〇歳代 2口以上（できれば4口以上）

E 学部四五～五四回（二八三一名） 現四〇歳代 2口以上

F 学部五五～六四回（二八八六名） 現三〇歳代 2口以上

G 学部六五～七二回（二七三五名） 現二〇歳代 1口以上

H 短大、院修了生（八一九名） 右記該当年齢区分に準じて1口（五千元）以上

■ 法人への募金要請額 一口 五万円

100周年記念事業実行委員の皆さんのお名前 (部会委員については新規加入を随時検討)

卒年	卒回	お名前
S 35 年卒	8回	中尾 哲雄
S 41 年卒	14回	四津井宏至
S 44 年卒	17回	上埜 進
S 45 年卒	18回	宮地 秀明
		遠藤 敏之
S 46 年卒	19回	奥 清一 (東北支部長)
S 47 年卒	20回	寺林 敏
		舟木 幸雄 (福井支部長)
S 48 年卒	21回	釜谷 春雄
		橋本 洋二
		小竹 茂樹
		米原 俊孝
		澤合 文雄
S 49 年卒	22回	杉森 聡
		鳥居由美子
		三宅 博 (関西支部長)
		中村 昌弘 (東海支部長)
S 50 年卒	23回	帯原 隆
S 51 年卒	24回	増岡 伸一
		藺守 貴弘
S 52 年卒	25回	飯塚 修 (関東越嶺会長)
		布目 大剛
S 53 年卒	26回	堀田 正之
S 54 年卒	27回	吉野 哲哉
		小林 武人
S 55 年卒	28回	碓井 光一
S 56 年卒	29回	宮村 樹
		鶴瀬 初弘
S 57 年卒	30回	福井 直樹
		伊野 伸英
		桑原 幹也
		伍嶋二美男
		山田 吉晴
S 58 年卒	31回	舟崎 友晶
S 59 年卒	32回	森永 利宏
		石井 幸治
		竹野 博和
S 60 年卒	33回	福田 直之
S 61 年卒	34回	松本 智広
		丸杉 輝
		山瀬 孝
		山田 勉
		長津 輝彦
		土屋 誠
		木村 温子
		崎 安宏
S 62 年卒	35回	岡本 武

卒年	卒回	お名前
S 63 年卒	36回	浦田 純一
		杉本 正人
		川端 宏典
H 元 年卒	37回	谷畑 滋英
		大西 哲憲
H 2 年卒	38回	五島 直樹
		高木 雅弘
		大波加 肇
		竹田 達矢
		殿村 幸子
		二口 洋
H 3 年卒	39回	亀永 辰之
H 4 年卒	40回	堺 広光
		寺嶋 直美
		赤川 浩一
H 5 年卒	41回	金瀬 正志
		牧山 貴英
H 6 年卒	42回	東田 勇秀
H 7 年卒	43回	手崎 裕之
H 8 年卒	44回	杉原 英樹
H10 年卒	46回	村田 英久
H11 年卒	47回	大嶋 敬右
H13 年卒	49回	小笠原史明
		沖 よし子
H15 年卒	51回	花岡 秀樹
H16 年卒	52回	黒崎 正
H17 年卒	53回	開坂 哲也
		川崎 理恵
H18 年卒	54回	重原佐千子
H19 年卒	55回	能登 幸美
H21 年卒	57回	道林 達也
H22 年卒	58回	福田 純子
H23 年卒	59回	園部 佑樹
		川口 彰悦
H26 年卒	62回	岩井 彬穂
H27 年卒	63回	金沢 輝
H29 年卒	65回	清水 雅文
		長沖 賢志
R 2 年卒	68回	青木 佑司
		中田 雛子
R 3 年卒	69回	吉田 未央
		末石 航也
R 4 年卒	70回	井澤 彩斗
S 37 年卒	短 2 回	稲垣 喜夫
S 38 年卒	短 3 回	高田 政公
S 52 年卒	短16回	浦田 竹昭
S 60 年卒	短24回	山崎 宗良
H24 年修	院20回	荻布 彦

越嶺随想

翻訳本を読み比べる愉しみ

学部14回 杉浦 吉治

『越嶺会報』第92号で、拙文「卒業論文を手にして」を掲載していただいた。その中で、アダム・スミスの『道徳感情論』と『国富論』（『諸国民の富』）の翻訳本をそれぞれ3種類及び4種類を読んでいたら、当然のことながらそれぞれ少しずつ異なっているが、肝心のキーワードがかなり異なっており理解しづらかった。そこで、原書を取り寄せてキーワードがそれぞれの翻訳本がどのように表現されているかを比較してみると、これは実に楽しいボケ防止策であることが分かった。

ここではスミスが『国富論』出版17年前の1759年36歳のとき著した＜The Theory of Moral Sentiments＞（改訂第6版出版250年記念2009年のPenguin Books版）の原書をもとに、紙幅の制限もあるので最も興味深い1か所を紹介したい。

この訳本は、昭和23年11月米林富男がタイトルを『道徳情操論』として上巻を翻訳し日光書院から出版している（部分的には、澁江保纂が明治24年に翻訳している）が、私の手元にはいずれも『道徳感情論』として、水田 洋訳（2003年2月、岩波文庫）、高 哲男訳（2013年6月、講談社学術文庫）、そして村井章子・北川知子訳（2014年4月、日経BP社）の3種類あり、比較すると興味深い箇所は多数あるが、いま世界を騒然とさせている国家間の争いについて、スミスが263年も前にこの『道徳感情論』で著わしている驚くべき的確な部分（第6部、第2篇、第2章）を比較してみたい。

まず、本文に入る前の「見出し」からして、それぞれ異なった訳をしているから面白い。

<原書(Penguin Books版)>

見出し；Part VI. Of the character of virtueSection II. Of the character of the individual, so far as it can affect the happiness of other people.

Chapter II. Of the order in which Societies are by nature recommended to our Beneficence.

本文；The love of our own nation often disposes us to view, with the most malignant jealousy and envy, the prosperity and aggrandisement of any other neighbo(u)ring nation. Independent and neighbo(u)ring nation, having no common superior to decide their disputes, all live in continual dread and suspicion of one another. Each sovereign, expecting little justice from his neighbo(u)rs, is disposed to treat them with as little as he expects from them. The regard for the laws of nations, or for those rules which independent states profess or pretend to think themselves bound to

越嶺論壇

今頑張れるのは
富山魂のおかげ

金森喜久男



昨年、晩夏の霽囲気漂う九月一日「おわら風の盆」に友人六人で参加してきました。久しぶりに富山の自然に触れ懐かしく多くの思い出が吹き抜けていったのは「風の盆」に身を置き影響を受けたものでしょうか。

名古屋で生まれ大学時代を富山で、四年間本当に意義ある時間を頂きました。卒業後松下電器(現パナソニック)に入社、多くの職場を経験しプロサッカークラブ「ガンバ大阪」社長の後、追手門学院大学に招かれ経営学部教授として経営を研究している時、多くの経営者が研究室に「情

報資産管理トラブル」について相談にいられたことが友人と「一般社団法人情報セキュリティ関西研究所」を起こすきっかけとなりました。

◎情報セキュリティ活動

二〇二〇年九月日本政府の「産業力強化法」に基づいた「技術等情報漏えい防止措置認証機関」として認可を受け情報セキュリティで企業を守り成長させる一翼を担っています。

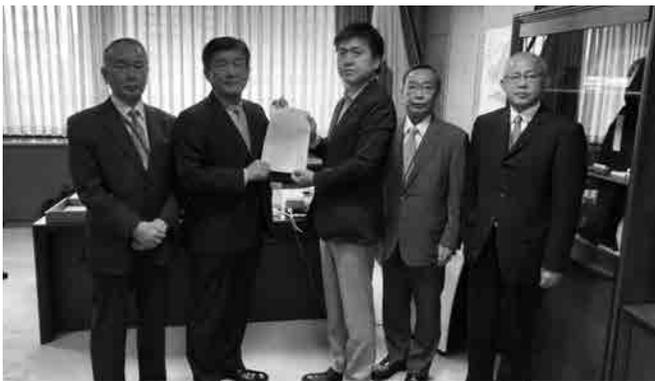
四年前に関西中小企業経営者千人に「情報資産(営業秘密)に関するアンケート」を実施、回答六四〇以上の企業のうち「自分の企業に特別な営業秘密は無い」と回答された人が七七%、またその情報を狙う「悪意ある第三者がいる」との認識は二〇%以下で「情報セキュリティで支援する法人」が必要と感じていました。どのような企業も重要営業資産なく存続はできませんが、経営者の多くが認識していないというのが日本企業の実態です。

日本経済が高度成長を遂げた背景には「敗戦からの復興」を凶ろうという全国国民不

屈の精神と若い世代の力、国際経済環境や朝鮮戦争という機会もありましたが「中小企業の技術開発力」が大きく影響したというのが私の持論です。

大企業の成長だけが取り上げられ話題になりませんが中小企業力があつてこそその高度経済成長でした。

しかし高齢化とバブル破綻により日本企業は急速に活力を無くしていきます。



さらに追い打ちをかけたのは、大企業がバブル崩壊後、円高により国内工場を閉鎖し海外生産へシフトし納入先を見失った多くの中小企業は国際化に取り残されましたが技術力だけは維持成長させていきました。

- ① 全国四百万弱の中小企業の抱える課題の代表的なものは
- ② 人員確保と人材育成
- ③ 情報システム社会への対応力
- ④ 情報セキュリティへの対応力

情報セキュリティは「組織的」「人的」「技術的(IT的)」「物理的」の対策を実行していきませんが最近サイバー攻撃被害報告が多く上がるようになりました。例えば、企業が持つているソフトウェアに対し損害を与えるサイバー攻撃を「マルウェア」といいます。代表的なものが「エモテット」と「ランサムウェア」です。エモテットはメールが送られてきて添付資料を開けると社内システム全部がウイルスに犯されてしまうものであり、ランサムウェアは企業内のシステムを乗っ取り正常な姿に戻したいならお金を払えとい

う誘拐身代金 (ransom) を要求するという国際犯罪集団によるものです。公開されてい
ませんが大企業だけでなく中
小企業も被害にあつています。
現在情報セキュリティの実
行が取引条件の必須になり、
当研究所への要請が多くなっ
てきました。

◎団塊世代の覚悟

高度経済成長時代を生き
た世代は「専門家スキル」を
保持しており、そのスキルを
使わないのは「もったいない」
との呼びかけで二〇名ほどの
研究委員が活動しています。
人生を終えるまで活動し、
今一度日本に成長力を取り戻
したいとの覚悟の毎日です。
活動に参加(NPOではあ
りません) したい方はご連絡
お待ちしております。
堅い話ばかりでお詫びしま
す。

かなもり・きくお
学部十八回(一九七一年)

母校だより

教員の異動

昇任 (R五年一月一日付)
神山智美教授
(こうやま さとみ)

経営法学科環境法学

新任 (四月一日付)

シャ・テイ (Xie Di)
経営学科助教 マネジメント

新任者は次号で改めて
紹介します。

経済学部資料室だより

大井魁様より『大熊信行の歌』



編集 大熊信行研究会
担当 遠藤綺一郎・大井 魁
9cm×9cm八九頁
平成五(一九九三)年六月
よねざわ豆本の会 発行

次期富山大学長に
斎藤滋現学長を再選。

学長選考・監察会議は十一
月二日候補者二名と各四〇分
づつ面談後、全会一致で決定
した。二期目任期は二〇二三
年四月一日から四年間。候補
適任者は他に都市デザイン学
系の堀田裕弘教授だった。



昭和47年 79歳
(大井 魁・蔵)



米沢市立商業学校教諭時代
大正7年25歳のごろ (長谷川浩司・蔵)

学生の活動

第五三回北信越ブロック
インナー大会に参加して

二〇二二年十二月十一日(日)
会場・富山大学

この大会は日本経済ゼミナ
ル北信越ブロック加盟大学が主
催し、学生に日頃の研究成果
を発表する場を提供し、研究活
動の促進と他大学の学生との交
流を図るものとして開催されて
いる。分野は、統計学・財政
学・会計学・経営学など多様で、
発表を聴くことで新たな知識を
習得できる。

今年度は主催校である富山大
学と金沢星稜大学の二校が参加
し、本学からは十三グループ、
三五名の学生がプレゼンテーシ
ョン形式で発表した。発表は二
十分間。学生同士の討論や助言
講師の方からの講評をいただく
形式で行った。研究内容やプレ
ゼンの技術に対して助言講師の
方から採点していただき、今後
の研究に活かすことができる良
い機会となった。
発表終了後には、採点結果に
もとづき最優秀賞・優秀賞のグ

グループが選ばれ、表彰式も行った。本学の参加グループも多数表彰されたことから、より良い研究を求めて多くの時間を費やしてきたことが結果としてあらわれ、参加学生は自信がついたと考える。

新型コロナウイルスの流行により、大学生活において他大学と対面での交流がほとんど無かったため、今大会でさまざまな学生の発表が聴けたり、意見を交わしたりする機会に参加できたことを非常に嬉しく思う。

また、今年度は本学が主催校のため、大会に向けて準備や会議を重ねてきた。コロナ対策として、金沢星稜大学との会議の会費はすべてオンラインのため、意思疎通が困難なく、



戦した。しかし、各校の代表者や参加学生と密に連絡を取り合ったり、先生方に助言していただいたりと、多くの方々のご協力のおかげで無事大会を開催できた。

これまで代表という役目を経験したことがなかった私にとつて、大会に向けた準備や会議、当日の運営には不安やプレッシャーがあったり、実際に問題も何度かあったりしたが、これらはすべて貴重な経験となり、大学生活での大切な思い出となった。今回体感した、苦労や達成感、仲間と協力する大切さを忘れず、今後の学生生活や社会人になつてからも活かしていきたい。

最後に、貴重な研究成果を発表してくださった参加者の皆様、助言講師としてご協力いただいた先生方、そして大会運営に携わってくださった方々に感謝したい。

代表 宮原美月(中村和ゼミ)



本部だより

越嶺会総会報告

日時

二〇二二年(令和四年)
一〇月五日(水)

会場

オークスカナルパーク
ホテル富山

コロナも多少落ち着いてきた頃となり曇り空の暑くもなく寒くもない、会合にはいい感じの日となった。

参加者は七〇名程度で間隔を取って集まるにはちょうど良い人数であった。総会も一つ二つおきに着席し懇親会場も一卓八人掛けを六人五人掛けにした。

総会は、重原佐千子さん



(学部五四回)に司会を依頼した。

まず亡くなられた恩師、学友のご冥福を祈り黙祷を捧げ、開会挨拶で伍嶋会長は経済学部(旧高岡高商)一〇〇周年記念事業の準備を始めたいと挨拶した。

中尾最高顧問も挨拶に立ち、力強い会長挨拶を聴き安心した。皆でこの事業を進めていこうと激励された。長く続け絆を保つことは大切であると、コロナ禍の中を富山県との友好提携三〇周年記念で米国オレゴン州へ行ってきた折りのエピソードを述べられた。

森口毅彦経済学部長は学部や大学院の改革の進展状況を説明された。

議事に入り、堀田正之副会長を総会議長に、決算予算などを原案通り承認し、小橋啓一監事の後任に、殿村幸子氏を選出した。

次いで、伍嶋会長が一〇〇周年記念事業の骨子案について資料に沿い、丁寧に説明した。拍手で承認した。

総会終了にあたり、感謝状が橋本洋二前会長へ伍嶋会長から贈呈された。

感謝状

橋本洋二殿

貴殿は平成二十九年五月から二期四年にわたり越嶺会会長としてコロナ禍における学生支援の充実や会員相互の結束に努めるなど本会の適切な運営と発展に多大の貢献をされました。

よつてその功績を讃え深く感謝の意を表します。

令和四年十月五日

越嶺会会長 伍嶋二美男



橋本前会長へ感謝状贈呈

懇親会

中尾最高顧問の発声で、

「黒部峡」で乾杯して開宴。

「黒部峡」は学部五八回の林秀樹さんが杜氏の林酒造のもの



中尾最高顧問

のと紹介した。ビールは当日東京からご参加の飯塚・関東越嶺会長の元勤務先アサヒビールを使った。

食品ロス防止のため、乾杯の後、しばらくは席を立たずに同じテーブルで話しするよう、「食ベキリン」「3010(さんまるいちまる)運動」として料理を味わって食べよう、残さず食べようとの主旨を案内した。

その間、遠来の関東越嶺会会長の飯塚修さん(学部二五回)、鹿児島からの瀬筒澄博さん(学部一六回)に挨拶をお願いした。

また、小矢部市議に初当選の山田吉晴さん(学部三〇回)、福井直樹高岡市議(学部二九回)、山崎宗良富山県会議員(短大二四回)にもスピーチをお願いした。

また、小矢部市議に初当選の山田吉晴さん(学部三〇回)、福井直樹高岡市議(学部二九回)、山崎宗良富山県会議員(短大二四回)にもスピーチをお願いした。

宴酣のころ、若手会員の皆さんに登壇してもらい、「ふるさと」を主唱してもらおう恒例のお開き前の次第に進んだ。六三回の金沢輝氏、六五回の長沖賢志氏、六八回・青木佑司氏、中田雛子さん、末石航也氏が勤務先名や仕事内容を説明するなど、堂々とした態度で、感心した。「ふるさと」

一番から三番唱和のあと、中尾さん作詞の四番を中尾さんの主唱で会場全員が歌い、拍手のうちにお開きとなった。

出席者
森口毅彦学部長

学部
五回 福田 明、宮崎甚一
八回 中尾哲雄

短大
二回 稲垣喜夫
三回 高田政公
二四回 山崎宗良

学部
一四回 四津井宏至
一六回 瀬筒澄博、久郷隆行
一七回 上埜 進
一八回 遠藤敏之
二〇回 寺林 敏

二一回 釜谷春雄、澤合文雄
二二回 橋本洋二、米原俊孝
二四回 杉森 聡
蘭守貴弘

二二回 杉森 聡
二四回 蘭守貴弘



ふるさと合唱



鹿児島から参加の瀬筒さん



飯塚関東越嶺会会長

二五回	飯塚 修、布目大剛
二六回	堀田正之
二七回	小林武人、吉野哲哉
二九回	鶴瀬初弘、福井直樹
三〇回	伍嶋二美男
三一回	山田吉晴
三二回	林 清滋、舟崎友晶
三三回	秋元一秀、石井幸治
三四回	竹野博和
三五回	油谷 浩
三六回	土屋 誠、長津輝彦
三七回	檜山和良、松本智広
三八回	丸杉 輝、山瀬 孝
三九回	山田 勉
四〇回	岡本 武
四一回	川端宏典、大門俊之
四二回	深田清就
四三回	大波加肇、黒川 央
四四回	竹田達矢、殿村幸子
四五回	亀永辰之
四六回	赤川浩一、寺嶋直美
四七回	長谷川正人
四八回	金瀬正志
四九回	東田勇秀
五〇回	手崎裕之
五一回	黒田祥子
五二回	沖よし子
五三回	花岡秀樹
五四回	重原佐千子
五五回	松原隆光
五六回	川口彰悦
五七回	金沢 輝
五八回	長沖賢志

六八回 青木佑司、中田雛子
 六九回 末石航也
 院
 九回 福井幸博
 二〇回 荻布 彦
 三〇回 田形昌敏

**第三二回越嶺会グリーン会
コンペを三年ぶりに開催**

八月二〇日(出)、太閤山カン
トリークラブ(富山県射水市
平野一番地)にて開催し、参
加者四〇名が親睦を図りなが
らプレーを愉しみました。新
型コロナウイルス感染症拡大
により三年ぶりの開催ではあ
りましたが、途中から大雨に
見舞われ、 HALFでプレーを
中断することとなりました。
表彰式では、越嶺会グリー
ン会土屋会長の開会挨拶、越
嶺会最高顧問・中尾先輩から
大学の近況報告並びに今回の
ゴルフコンペの講評をいただ
いた後、今コンペ初参加とな
りました六名の方より自己紹
介や近況報告もいただきました。
優勝は、初参加の江島教英
さんでした。大雨による中断
でメンタル的にもスコア的に

も若干、不完全燃焼なコンペ
となりましたが、久しぶりの
開催となり、一年後の経済学
部創立一〇〇周年に向けて良
い機会となったのではないで
しょうか。
**二〇二三年は八月一九日(出)
に同クラブにて開催を予定し
ております。**今回以上に盛会
に開催いたしたいと思います
ので、お一人でも多くの会員
の皆さまのご参加をお待ちし
ております。



参加者	中尾哲雄
八回	浅井育弘
一六回	嶋谷潤一郎、郡 霽
一七回	清水和雄、久田武彦
二〇回	江藤雅雄、大橋正幸
	小野 崇、関井哲仁
	福岡克己
二一回	小竹茂樹
短一七	木勢博文
三〇回	青山哲哉、大野公久
三一回	桑原幹也、中田和夫
三二回	木村昌幸
三三回	中本秀史
三四回	浅井清志、桧山和良
	寫田靖士、土屋 誠
	森山真人、中山浩司
	山田 勉
	古里博人
三五回	杉本正人、深田清就
三六回	
三七回	西本定代史
三八回	江島教英、二口 洋
四〇回	赤川浩一
四一回	長谷川正人
四二回	金瀬正志、西田恵介
四三回	本田泰郎
四四回	手崎裕之
四五回	花岡秀樹
五四回	松原隆光
越嶺会常任幹事・	
越嶺会グリーン会幹事	
金瀬 正志	

越嶺会 決算表 (令和3年(2021)年4月1日~令和4(2022)年3月31日)

1.一般会計

単位:円

取入の部	決算額	支出の部	決算額	備考
前年度繰越金	659,392	事務費	324,045	
入会金・終身会費	5,735,000	通信費	2,759,711	会報90,91号発行
總會等懇親会費	0	印刷費	1,048,300	会報90,91号発行
会報発行協力金	967,000	手数料	108,044	郵便振替
利息収入	16,341	人件費	1,453,665	専任事務局員給与等
名簿代收金	5,000	会議費	0	正副会長会議等
寄付金	415,000	卒業祝賀会経費	0	卒業祝賀会中止
		同窓会連合会分担金	75,900	5万+R2年度新入会員数×100円
		越嶺会基金へ繰入	600,000	
		翌年度繰越	1,428,068	
合計	7,797,733	合計	7,797,733	

2.越嶺奨学基金会計

取入の部	決算額	支出の部	決算額	備考
前年度繰越金	11,303	事業費	100,000	
利息収入	0	予備費	0	
越嶺奨学基金より	100,000	翌年度繰越	11,303	
合計	121,303	合計	121,303	

3.基金

基金名	R3年3月31日	R3年4月1日	R4年3月31日
越嶺会基金	24,400,000	24,400,000	25,000,000
越嶺奨学基金	29,300,000	29,200,000	29,200,000
合計	53,700,000	53,600,000	54,200,000

監査年月日

令和4年3月17日

監査委員

金谷春雄 (印)

越嶺会 予算 (令和4年(2022)年4月1日~令和5(2023)年3月31日)

1.一般会計

単位:円

取入の部	予算額	支出の部	予算額	備考
前年度繰越金	1,428,068	事務費	330,000	
入会金・終身会費	5,500,000	通信費	2,800,000	会報93,94号発行
總會等懇親会費	400,000	印刷費	1,250,000	会報93,94号発行
会報発行協力金	1,000,000	手数料	140,000	郵便振替
利息収入	15,000	総会費	500,000	
名簿代收金		人件費	1,460,000	専任事務局員給与等
寄付金		会議費	50,000	正副会長会議等
		慶弔費	15,000	
		卒業祝賀会経費	1,300,000	
		同窓会連合会分担金	78,700	5万+R4年度新入会員数×100円
		支部助成金	0	
		予備費	419,368	事務費PC入替ほか
合計	8,343,068	合計	8,343,068	

2.越嶺奨学基金会計

取入の部	決算額	支出の部	決算額	備考
前年度繰越金	11,303	事業費	100,000	
利息収入	10,000	予備費	21,303	
越嶺奨学基金より	100,000	翌年度繰越		
合計	121,303	合計	121,303	

3.基金

基金名	R4年3月31日	R4年4月1日
越嶺会基金	25,000,000	25,000,000
越嶺奨学基金	29,200,000	29,100,000
合計	54,200,000	54,100,000

同窓会連合会 総会報告



令和四年七月一四日(木) 午後六時から富山電気ビルで開かれた。総会では、決算、予算案が原案通り了承された。寺林会長の交代が了承され、仰岳会出身の坂井孝幸新会長の挨拶



があった。

講演会では、越嶺会長の伍嶋二美男・富山県新世紀産業機構理事長が、「ものづくり企業」をはじめとした県内産業の成長発展に向けた創業、人材育成や商品開発・技術開発など多方面にわたる取り組みについて、熱心に語られた。

同窓会連合会

ゴルフ大会報告

二〇二二年五月二八日(土) 高岡カントリークラブ 参加者 三三名

- 越嶺会一三名
- 仰岳会一〇名
- 葉窓会 五名
- 学窓会 四名
- 理学部 一名

- 個人優勝 木村昌幸さん(越)
- 二位 西川友之さん(学)
- 三位 大内将斗さん(葉)
- 団体優勝 越嶺会A
- 二位 越嶺会D
- 三位 仰岳会B

次回二〇二三年は、葉窓会さん幹事で、五月二七日(土)八尾カントリーで開催予定です。

寄贈図書御礼・紹介



石田五十六様

(学部一四回)より

「徒然な男のブルース オケラの戯言 三六五話」

石田五十六著

A五判四八五頁。

二〇二二年九月二二日

幻冬社発行

二二一〇円(税込)

二〇二〇年に『そば読本』(会報八九号で紹介)を出版した著者が数十年書き溜めたものをまとめた『現代版徒然草』。目線は一匹の蝮(おけら)の立ち位置。徹底した庶民論・庶民史観に立つ市井の人間の戯言―「はじめに」より抜粋―。

一〇五話劇団ふだい

一八八話学原論

二〇五話学生寮

三〇七話富山市内の思い出など越嶺会員も惹かれる内容。



服部重敬様

(学部二四回)より

「富山県の鉄道」

一九六〇年代〜北陸新幹線

開業までの記録

著者 服部重敬

二〇二二年一月一日

(株)フォト・パブリッシング

B5判二五六頁

三九六〇円(税込)

懐かしい写真でよみがえる県内各地の鉄道史、富山県の鉄道小史として一八九七年の中越鉄道開業以来の歴史を概観できます。富山地方鉄道に統合される鉄道路線が電力資本と関わりを持つことで産業県としての発展に寄与しました。

国鉄からJRに変わるなかで東京行き特急が速くなっていったことも地域間の結びつきの変遷をみせています。

私の卒業論文

―五〇年前の
タイムカプセルを開けて―

竹澤 喜孝

「越嶺会報」には事務局から皆さんの卒業論文の返却する旨の事務記載があります。以前からこの卒業論文の返却の記載についてはわたし自身何となく気になっていました。ただ返却まではと思いつつ、何年か経ちました。その返却するきっかけになったのは、令和四年七月一日発行の第九二号「越嶺会報」です。そこに同窓生の方々の卒業論文を手元に返却されその思いを記載されていました。拝読しその感動が私の心を揺るがせました。そこで思い切つて、越嶺会の事務局に返却のお願いしました。

届いて、開けてビックリです!!五〇年前にタイムスリップです。苦勞して書いたことは覚えていますが、卒題は全然思い出せませんでした。「わが国の社会保障の課題―高福祉社会実現のために―」

とたいそうな卒題を掲げていたのです。今の時代を先取りした。まあ、当時はまだ福祉制度は貧弱でした。経済成長に舵を取りつつあった時代背景を考えると自分なりに結構

社会福祉について問題意識を潜在的にもつていたと自分を誉めました。その意識が今年退職後、誰も成り手のない地域の自治会長・民生委員を引き受けています。社会・地域の最前線で人のため世のため支え合いの「一手」として孤軍奮闘しています。(笑) もう一つの驚いたのは、今はパソコンかと思えます。当時は四百詰め富山大学経済学部所定の論文用紙に一字一句丁寧にそれも万年筆で書いていたのですね。(これも覚えていませんが。)参考に使

った表や図も所定の四百詰め富山大学経済学部論文用紙



を横書して書いていたのです。今では考えられないです。

ということ、同窓生のみならず！未だご自分の卒業論文を返却されていない方は、ご自分の大学生活の集大成の想いのひとつとして卒業論文を手元に置かれてもいいのではないかと思います。是非、越嶺会事務局へご一報を！余談

時々、卒業論文を締切日に提出していなくて、学務係の掲示板に未提出者の紙が貼られている夢を見ることがあります。今回、自分の卒論を手元に置いて実物を目の前で確認しました。これでこの悩ましい夢は解消し、もう二度と出てきませんネ！(笑)

写真は福祉・介護のシンポジウムの全国大会「いきがい・助け合いサミットin東京」(通称・東京サミット)に私が世話役代表している「支え合い会議板橋」の一人として参加した時のものです。* *この「支え合い会議板橋」は一地域の協議体で、厚労省の生活支援体制整備事業です。国の生活支援整備の一

環として四年前から全国の市区町村単位で組織化されています。我が板橋区は十八ブロックで活発に住民主体の活動をしています。「支え合い会議板橋」はその十八ブロックの協議体の一つです。全国レベルでも一番進んでいるひとつです。

今まで高齢者への地域の対応は、行政、町会、民生委員、老人会、NPO法人、各福祉施設等縦軸でのサポートでした。厚労省はこれを横軸にして、高齢化が格段に進む中、地域全体で高齢者を支えていく協議体を立ち上げているわけです。地域の高齢者の困りごと、高齢者が元気に地域と交わっていく具体的な方策などを考え、活動しています。その推進母体はやはり各市区町村にある「社会福祉協議会」です。(22回 たげざわ よしたか)

わが国の圧力団体
これが私の卒業論文の
タイトルでした。

太田 恵雄
「卒業論文をお返ししま

す「いつもご送付いただいて
いる越嶺会報にこの記事を見
つけ、また、経験者の投稿を
拝読して自分も卒論を返却し
てもらおうと思いい立ち事務局
あて依頼の文書を送付しまし
た。

果たして自分の卒論はきち
んと保管されているのだろう
か？一抹の不安がありました
が、ほどなくしてメールをい
ただき、現物も届きました。
原稿用紙五〇枚ほど書いた記
憶はありましたが、まさかこ
んな風にファイルに綴じられ
ているとは思いませんでした。

私の所属した大谷ゼミは政
治学のゼミでした。当時の日
本社会では、財界や労働団体
の動きに加えて、国鉄の全国
ストライキ、日本医師会によ
る保険診療ボイコット、農協
による生産者米価引き上げ要
求運動(米価審議会に出席す
る委員の肩をたたいて激励す
る光景がテレビでよく流れ
た)などが、しばしばマスコ
ミに取り上げられ、こうした
団体が政治に圧力をかけ、自
分達の生活にも少なからず影
響を及ぼしていたので、この
テーマにしたのであろうと思

います。

今読み返してみるとなかなか
立派なことが書いてありま
す。参考文献の中に、石田雄
東大名誉教授のお名前があり
ました。政治学の大家です。
この方の「現代組織論」とい
う著書を参考に(と言う
かほとんど引き写し?)卒論
を仕上げた記憶があります。
当時はまだワープロもパソコ
ンもありませんでした。卒論
を書くにあたって、万年筆を
新調したのを覚えています。
その万年筆で原稿用紙に書き
ました。

成績が悪く、口下手で社交
性もないので民間企業への就
職は無理と考え、卒業を一年
延期して公務員試験に挑戦し
ました。悪いことにその数年
前に起きたオイルショックに
より、就職戦線は最悪でした。
世は不景気となり学生は公務
員試験に殺到し、とんでもな
い競争倍率となっていたので
す。ところが拾ってくれる神
もいるもので、見事試験に合
格し名簿に登載されました。
(奇跡的な出来事)
いくつか二次試験を受け、
結局、東京大学に就職するこ

とができました(当時国立大

学職員は、文部事務官と呼ば
れる公務員)。職場は、新潟
や長野、茨城や千葉といった
地方出身者が多く、地方しか
知らない中途半端な自分でも
徐々に都会の職場に馴染んで
いくことができたのです。当
時の私の仕事は、部局長の集
まる会議のお世話役でした。
そこで石田先生にお会いした
のです。社会科学研究所の所
長を務めておられました。
「この方に卒論でお世話にな
ったのか!」そのお姿を拝見
して感慨深いものがありました。
昼休みによくランニング
をされていたように思います。

私はその後、本省に転任し、
本省といくつかの国立大学を
経験して数年前に定年退職し
ています。実は、一四、五年
前に母校にもお世話になりま
した。その時点まで活動家が
居座っていたのはがっかり
しましたが、その勢力の一掃
に西川学長特別補佐(当時)
と、汗をかきました。今は東
海地区の私立大学に再就職し、
それも今年度末で任期満了と
なります。
大学で学んだことは何かな、

と時折考えることがあります。

大谷先生の授業は次第に熟を
帯び、最後の方では黒板が真
っ白になるほどチョークで書
きなぐつて熱弁をふるつてお
られました。が、一体いつの時
代のどこの国の話をしている
のだろうかと、いつも冷めた
目で見ていたように思います
(失礼)。他の授業も同様で、
経済学部は、西洋文化の翻
訳・紹介業で、現実性に乏し
いと感じていました。そうし
た経験から他の意見や見解に
は一定の距離をとり、自分な
りに物事を見極めるようにな
りました。どうやら「批判的
思考力」だけはしっかり身に
付いたようです。母校の先生
方には、現実の経済・社会を
分析・解説できる学生を輩出
してほしいと願っています。

最後に改めて事務局にお礼
申し上げます。長い間保管し
ご返送いただき、誠にありが
とうございました。これを機
に何か書ければと思っていま
す。
(おおた・しげお
昭和49年度入学
学部27回卒業)

会員の訃報

謹んでお悔やみ申し上げます

卒業回	お名前	ご命日	卒業回	お名前	ご命日
高商12回	古澤 英雄	令 4.9.4	学部13回	宮本 孝	令 4.9.21
高商17回	藤川 勝喜	令 4.8.29	学部14回	平井 修一	令 4.2.13
高商18回	二元 喜一郎	令 2		小山 剛司	令 4.4.4
	南井甲 子郎	令 4.8.27		堀江 弘	令 4.10.15
	長井 諭吉	令 4.1.30		山本 政男	令 4.8.5
学部2回	田辺 昭吉	令 4.11.22		井坂 功	令 4.1.19
学部3回	北村 洋誠	平 4.2.23	学部15回	小山 英昭	令 4.2.7
学部4回	尾山 昌吾	令 2.10.7	学部16回	岡崎 毅	平 28.1.14
	澤田 武彬	令 4.6.13		新村 知彦	令 4.9.29
	堀埜 豊三		学部18回	吉原 澄夫	平 19.12.22
	長澤 武	令 4.11.28	学部19回	小谷内 務	平 31.4.22
学部5回	宮保 孝	令 4.5.31		森下 慶三	平 17.12.26
学部6回	清水 和明	令 4.7.10	学部20回	樋樫健治郎	平 21.3.5
学部7回	四津谷 征志	令 4.3.26		上野 潤	平 26.9.20
	梶野 峯雄	令 4.8.4	学部22回	野尻 光男	令 4.5.9
	安倍 樹	令 4.11.6	学部28回	駒澤 信雄	令 4.12.27
	北野 敏治	令 4.10.4	短大1回	石丸 裕造	令 4.4.7
学部9回	中野 明彦	令 4.3.18	短大2回	吉田 敏夫	令 3.10.29
	奥田 弘	平 30.6.8	短大3回	尾崎 栄輝	平 28.8.16
学部10回	塩井 努	令 3.12.3	短大4回	土屋 民雄	令 4.4.19
学部11回	竹迫 弘隆	令 3.11.22	短大6回	西ノ宮 輝幸	令 3.12.30
	蜷川 順夫	令 4.8.6	短大7回	川上 暁彦	令 3.4.1
				大島 鎮久	令 4.9.23

追悼 ご冥福を祈ります

土屋民雄さん (短大四回)



土屋先輩は、大柄で人当りもよくて短大五周年記念行事でも遺憾なくその人柄を發揮され、短大五年制昇格署名運動(現在の夜間学部になります)、ダンスパーティ、ワンダーフォーゲル、運動会などの委員になられてその力をいかなく發揮されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

〈関東越嶺会常任理事
短大四回 立田 征夫〉

土屋先輩は、本年四月に逝去されました。関東越嶺会の会計担当、短大代表の副会長として長きに渡りご尽力いただきました。

先輩はパソコン等があまり得意でなかったのかもしれない。会合の出欠最終確認のため私から電話をする、あつ、まだメール見てない、

「パソコンの調子悪くて…」等の返事でしたが、結局はいつも参加の回答で、会合で様々な意見を出されてきました。癌が見つかり治療を開始されたから、参加を継続されていきました。

また、東京富山県人会連合会理事を長年されてきました。県人会連合会の催しにも積極的に参加されていきました。同窓会や県人会連合会のよいうな「富山つながり」をとて、も大事にされていた方でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

〈関東越嶺会会長
学部二五回 飯塚 修〉

「人をほめて育てる」の
実践者、古澤英雄先輩



私が関東越嶺会総会に毎年続けて出席するようになったのは一九八五(昭和六〇)年頃からです。当時、会長は木田川和夫さん(高商十四回)

で、会長の任を二四年間と長く務められました。

その後、高岡高商ご出身で役員を務めお世話されたのは、古澤英雄(十二回、昭和十四年三月卒)、長谷重信(十五)、吉本利彦(十七)、蒲田弘(十八)、戸谷邦弘(十九)の諸先輩で、皆様から直接、「同窓」の意義と大切さを教わりました。

さて、古澤先輩は本年九月四日、ご長寿の満一〇四歳で逝去されました。一〇〇歳の際も総会や講演会・新年会に出席され、それまで毎回、後輩の私どもを励まし続けてこられました。

特に印象深いのは、毎年一月開催の講演会の後の先輩のコメントでした。講師は役員会で推選した卒業生が大半で、毎回、興味深い内容でした。先輩は講演内容のみならず、講師の業界や所属先での活躍や人となりについても、高い評価と敬意の言葉を尽くされました。たぶん、講師や演題の周辺情報について、事前の準備をされていたと察し、毎回、感服していました。

私が世話人をしていた頃の「eワイン会」にも度々ご出

席くださり、車座で歓談を楽しまれていました。ある時、ご先祖が加賀藩の勘定方(會計担当)であった内容の古文書が金沢市のご実家で見つかったとご披露。この時、私は先輩とご先祖の血のつながりが、高岡高商で学ばれた由縁かと合点した次第です。

古澤先輩は、まわりの人たちに温かく、そして元気づけるオーラをお持ちの人でした。「人をほめて育てる」を実践された達人でした。

関東越嶺会を育て、後輩を温かく見守り続けてくださった古澤英雄先輩に、心から感謝申し上げます。

〈元関東越嶺会会長 現顧問 学部十四回 渡邊慶孝〉

古澤英雄さんが一〇四歳で亡くなられました。関東越嶺会(高岡高等商業、富山大学同窓会の関東支部)でお会いしたのは私が同窓会に参加し始めた二〇〇〇年(平成十二年)頃でした。古澤先輩は伝

統ある高岡高商十二回卒で、多大なるご指導と激励をいただきました。豊富な経験と幅広い見識があり、総会、新年

会でお会いする都度お話しを伺い、刺激を受け、毎回参加するのが楽しみでした。

二〇一〇年(平成二十二年)に関東越嶺会設立八〇周年記念誌の発行に際し編集委員会でご一緒しましたが、古澤さんより高岡高商の歴史、当時の様子をお聞きし高商の素晴らしさを認識しました。古澤先輩は昭和二九年から同窓会へ参加されました。設立九〇周年大会が新型コロナで開催できず残念でした。

気さくで世代を超えて声をかけてもらい、新年会の後は銀座へも連れて行って頂いたり、文京区白山の店で夜遅くまで一緒に騒ぎました。大変楽しい時間を一緒に過ごさせて頂き有難うございました。これまでのご指導に感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

合掌
〈前関東越嶺会会長 現顧問 学部十八回 福田哲郎〉

古澤大先輩は関東越嶺会の名実ともに最高顧問として、長きにわたり当会を牽引していただきました。

大先輩は高岡高商十二回生

(今から八三年前の昭和十四年三月卒)です。私は高岡高商の名前は高校時代に知ってはいましたが、全国から優秀な学生が集まっていたこと等の詳しいことは、富山大学卒業後ずっと後で認識したことです。関東越嶺会で多くの高岡高商の人望ある先輩にお会いしましたが、大先輩が正にそのお一人です。

大先輩には各会合でスピーチを頂戴しましたが、古いこととでなく昨今や当日の話題を取り上げ、またユーモアたっぷり、会場内がより明るくなりました。毎回このスピーチを楽しみにされていた会員も多かつただらうと思います。

大先輩に少しでもだけ恩返しのできたかもしれません。本年一月に高岡高商十五回生本田健士さんの遺品から、当時の卒業式典資料・高岡高商や高岡市街の写真等が数多く見つかりました。(甥の本田孝範さんよりご提供、本部会報第九二号参照)私はこれらの貴重な資料を大先輩にお送りしましたので、懐かしうご覧になつたかと思えます。

ご冥福をお祈り申し上げます。

す。
〈関東越嶺会会長
学部二五回 飯塚 修〉

**安倍樹大兄に先立たれて
河合健夫**



二〇〇四年
80周年記念
大会で挨拶

過ぎ去った半世紀以上の私の交友関係を振り返ると、決まって今は亡き貴君の温顔と行動力の確かさに思い当たります。長かった闘病生活にピリオドを打ち、とうとう旅立たれたのですね。

私たちは経済学部の高光ゼミナールで知り合いました。交友を深めたのは、卒業してから数年後で、互いに勤務生活での希望や不安を語り合った頃からでした。

貴君は印刷会社の役員にまで昇進され、一方では同窓生の集う関東越嶺会に於いて、その会長までこなしてこられたことは、さぞ大変だったでしょう。

そんな頃にもゼミ生の結

は堅く、家族ともどもの交友を丸うと三年ごとに北陸、関東、関西各地の保養地に集って談ずることになりました。おかげで十名全員が家庭円満仕事も順調、みんな貴兄のリードがあつたおかげと感謝していました。

あなたは、また、故郷や友人への思慕の念のひときわ強い人でした。

一時期、私が仕事で上京していたころ数人の旧友と訪ねてこられたことがありましたね。今朝富山湾で上がった福来魚を買ってきたからと、ご自身で上手く捌いて振舞ってくれました。貴君の器用なことと故郷の味噌がマッチしてみんな舌鼓を打つたことも思い出されます。

どうか安らかに眠りください。私も近いうちに貴君のおそばに参ることになりそうですから、また楽しい語り合いができることでしょう。

〈学部七回
かわい・たけお〉
合掌

関東越嶺会会長を平成十二年(二〇〇〇)年から六年間務

められた安倍樹さんが逝去されました。長きにわたり同窓会を牽引していただき、数年前に脑梗塞を患つたとはお聞きしていたのですが、先輩は会長の前に代表幹事をされており、その間の平成七年、関東越嶺会の会報発行を先頭に立つてスタートさせました。ちょうど私が、関東越嶺会に関わり出した頃でした。

私は卒業後三年目二五歳の時(昭和五四年)に、サッカー部先輩の学部二二回松澤哲夫さんに誘われ、東京駅近くの鉄鋼会館で開催の関東越嶺会総会・懇親会に参加しました。若い方が少なく思えて、それ以来は長年当会と距離を置いていました。平成七年で置いたか、平日のある日、会社に安倍先輩から「幹事やってほしい」と一本釣りの電話を頂戴しました。おそらく、経済学部創立七〇周年の寄付金納入者リストをご覧になったのでしよう。当時の私は「頼まれた、仕方ない」と思いました。それから二七年経過した今では、先輩に本当に感謝している次第です。

先輩は、東京富山県人会連

合会に所属の東京富山市友会や東京神通会(富山中部高校)等でも活躍されたと同つています。心よりご冥福をお祈りします。

〈関東越嶺会会長
学部二五回 飯塚 修〉

卒業論文を

お返しします

返却ご希望の方は、越嶺会事務局へご連絡ください(メール、FAX、はがき、電話など)。

送料はご負担ください、受領書返送時に切手等でお願ひします。

住所変更を

お知らせください。

住所や姓名等に変更があらた方は、お知らせください(メール、FAX、はがき等で)。

越嶺会事務局は

表紙右上をご覧ください。



富山大学基金だより

第 20 号
2022.11.1 発行

令和 4 年度支援事業

皆様方からご寄附いただいた基金により、令和 4 年度において以下の支援事業を実施します。

● 学生海外留学支援事業

予算額：400万円

本学に在籍する学生（ただし、外国人留学生、奨学金受給年度に学部 1 年次生である者、研究生、科目等履修生等を除く。）で、28 日以上 1 年以内の海外留学を計画する者で、所属学部等の長及び指導教員から推薦のあった者のうち、優秀な学生の海外留学を支援します。

● 成績優秀者表彰事業について

予算額：187 万円

学位記授与式において、各学部及び大学院の成績優秀者に対し、表彰のうえ記念品を贈呈します。

● 学部 1 年次学生の短期海外派遣プログラム支援事業

予算額：600 万円

グローバル人材養成のため、教養教育院において習熟度別の英語教育を行った後、選抜された 60 名の 1 年次学生に対し、短期海外派遣プログラム参加のための支援を行うこととしています。

● 令和 4 年度富山大学夏季オンライン英語研修プログラム

予算額：60 万円

海外留学、海外研修等を希望し、英語能力向上に意欲のある学生を対象とし、海外での学修に必要な高度な英語能力を養うためのオンライン英語研修への参加を支援します。

夏季オンライン英語研修プログラム（アテネオ デ マニラ大学）を受講して

研修先のアテネオ デ マニラ大学は THE World University Ranking でフィリピン国内第 1 位にランクインする国際的にも評価が高い大学です。コロナ禍にオンラインで交流を続けてきたこともあり、現在は大学間交流協定の締結に向けて協議を進めています。来年 3 月には現地で開催する英語研修も予定しており、このオンライン研修の実施を通じて交流の機会が広がっています。

● 久しぶりに英語を使った活動に参加できて、英語学習への意欲を

高められました。今後も継続して英語を勉強します。

（人間発達科学部 2 年 重野 歩）

● 全体的な英語力の向上が感じられて想像以上の効果があったと

思う。教師たちも明るく教えてくれるので学習意欲の向上につながった。（医学部 1 年 津田温大）

● プログラムに参加したことで、英語で話すことへの抵抗は以前

より少なくなったと感じています。ご支援くださりありがとうございました。（経済学部 4 年 荻田真緒里）

● 想像以上に内容の濃い講習だった。2 週間という短い間で、1. 積極的に英語を使う、2. 文法の構造やエッセイの組み立て方の理解、3. 英語でのプレゼン、という今後の学習に応用できる要素を得ることができたのは非常に大きな収穫だと思う。受講してよかった。（持続可能社会創成学環 修士課程 1 年 北澤唯佳）

● 毎日英語にふれられて、とても良かったです。耳が慣れてかなり英語を聞き取れるようになりました。先生も私達にわかるようにゆっくりはっきり話してくださりました。特に、ライティングのスキルと、間違っていてもとにかく英語で伝えるという気持ちで負けないところが身に付いたと思います。参加して良かったです。（理工学教育部 修士課程 2 年 田母神さくら）

● このプログラムが始まる前はとても緊張していましたが、授業はとても楽しく、2 週間があったという間でした。先生方が私の拙い英語を一生懸命聞き取り、意思を汲み取ってくださったおかげで、私は英語でコミュニケーションをとることができてとても嬉しかったです。また、英語で文章を書くときの構想の仕方や読むときのポイントなど、これからの英語学習に活かせるようなことを沢山学ぶことが出来たので、このプログラムは非常に有意義な時間となりました。そして、この 2 週間毎日英語に触れたことで、徐々に英語で話すことへの抵抗が和らいでいったのを実感することもできたので非常に良かったです。（芸術文化学部 2 年 宮崎音羽）



富山大学基金の寄附受入状況

(受入期間：令和4年4月～令和4年9月末)

寄附の種類	寄附件数	寄附金額
富山大学基金(一般)	71件	15,457,922円
(うちリサイクル募金)	(25件)	(70,211円)
修学支援基金	23件	411,000円
研究等支援基金	5件	540,000円
合計	99件	16,408,922円

寄附者様ご芳名一覧(令和4年4月～令和4年9月)

個人(50音順・敬称略)

秋岡 直樹 安部 行雄 有澤 宗久 五十嵐 修 稲垣 栄子 井ノ口 馨 猪又 峰彦 上野 博志
 加賀谷重浩 川口 善治 川崎 宏 窪田 真弓 犀藤 一枝 坂井 昭寿 酒井 富夫 櫻井 義雄
 佐藤莉和子 下岡 靖宜 下敷領 強 杉山 幸大 高井 正三 高木 繁雄 高橋 努 竹村 樹里
 武村 佳記 武山 良三 常本 悟 遠山 和大 中川 嘉 成田真由美 西坂 緑郎 西島 健史
 野口 京 野島 宏 林 篤志 林 龍二 福田 明夫 藤本 誠 堀 悦郎 前田 等
 森本 直幸 矢田 哲也

(ほか公表辞退 28名)

企業・法人等

一般財団法人立仁会 株式会社北陸テクノソリューションズ 協同組合全国企業振興センター
 富山大学生活協同組合 北陸電力株式会社

(ほか公表辞退 4社)

富山大学トピックス

一遺贈によるご寄附について一

富山大学では、所有しておられる資産の一部を、将来、本学に遺贈(遺言によるご寄附)したいとお考えの方に対し、遺言信託業務を取り扱う提携銀行をご紹介します。提携銀行では、遺言書作成のご相談から遺言内容の執行まで、専門のスタッフがサポートいたします。なお、相続税申告期限内に本学にご寄附いただいた資産については、相続税の課税対象となりません。本学が発行する寄附受領証明書類(寄附金領収書など)を申告の際に税務署に提出されることで、当該寄附財産に係る相続税は免除されます。本学への「遺贈」をご希望される場合は、下記の担当窓口へお問い合わせください。また、提携銀行へ直接お問い合わせいただいても結構です。

《提携銀行(50音順)》○北陸銀行 リテール推進部信託チーム 電話：076-423-7111

○三井住友信託銀行 富山支店 電話：076-441-4635

一令和4年度富山大学ホームカミングデーを開催一

令和4年10月29日(土)に令和4年度ホームカミングデーが開催されました。これは、同窓生と本学の連携を深めることを目的に実施しています。今年度は「データサイエンスでウェルビーイングを科学する」と題し、オンライン参加も含めたハイブリッド形式にてシンポジウムを行いました。

一令和4年秋の叙勲受章者発表一

教育研究功勞【瑞宝中綬章】 服部 征雄(富山大学名誉教授、元富山大学和漢医薬学総合研究所長)
 藤本 幸夫(富山大学名誉教授)

富山大学基金に関するお問い合わせ先

富山大学総務部総務課広報・基金室(基金担当)

〒930-8555 富山市五福3190 Tel. 076-445-6178 Fax. 076-445-6014

E-mail: kikin@adm.u-toyama.ac.jp URL: https://tomidaikikin.adm.u-toyama.ac.jp/

